

令和5年度 朝来市立（中川小）学校 学校評価

学校教育目標

である (be) 学校から、できる (can) 学校へ

総合的な学校関係者評価

・ホームページやブログ、地区回覧の便りなどで情報発信をよくされて、学校の取り組みがよく分かる。  
 ・「授業がよく分かる」が少しずつ上向いて来ているので、今後もお願いしたい。  
 ・様々な〇〇教育への取組が必要かもしれないが、根本的な「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成に力を注いでいただきたい。

自己評価 達成状況 (A: 達成している B: 概ね達成している C: あまり達成していない D: 達成していない)

評価の観点		達成状況	学校の取組状況・今後改善すべきこと	自己評価の妥当性 (評価項目ごとの学校関係者評価・意見等)
学校運営	地域とともにある学校づくり	A	保護者アンケートで4点中3.7点の評価を得ていることは学校側の努力の成果であり、保護者の学校への関心度の高さを示していると考え。ホームページや学校通信、学級通信をはじめとして発信しているが、特にブログでの発信頻度は高い。	学校便りの地区回覧やホームページへのこまめな掲載などの情報発信で、保護者は情報を入手できて、学校との信頼関係が構築できて良好である。オープンスクールも適宜実施されており、児童の学校における生活状況を把握できる。ホームページ等への掲載への配慮を引き続きお願いしたい。
		A	今年度は創立150周年記念事業の実行委員会としても稼働した。記念事業に関して、部会を中心に動いており、今後も委員が主体的に動いていければよい。今後も地域の方の関心も高まっていくような取組を進めていきたい。	今年度は会議では150周年記念事業の内容が多かったが、授業等で児童の様子を見られる機会があっても良かった。学校運営に校外のより広い意見が反映されることは重要なことと思う。あいさつ運動、草刈りボランティアの実施など、学校運営協議会の取り組みも少しずつ定着してきた。
	生徒指導	B	中川tubeや中川クラフトを企画し、友達の間で頑張っていることやできることを認めあうことができた。また、良い面だけでなく課題のある面を情報共有できているため、担任が学級づくりを進めていきやすい。	学校生活の基本行動(挨拶、トイレマナー、清掃など)がよく指導されている。前期より上向きな評価になってきている。保護者の評価も上がっている。このまま継続していただけたら良い。
		B	子どもたちに寄り添った対応を心がけている教職員が多く、指導の工夫がなされている。担任だけでなく、複数の目で児童を見守る体制を整えていることにより、小さな変化にも早く気付くことが出来ている。	心の奥に問題を抱えている児童に対しては、面談などを通して、認め理解することが必要。いじめ防止にもつながる。
		A	生活指導委員会がきちんと機能しており、教職員間での共通理解と対応ができている。毎月各学年の生指の内容を記入し、共有するシステムは今後も続けていきたい。各ケースで人的配置やサポート体制等を工夫して細かに対応できた。	インターネットを含むいじめの未然防止、早期発見、早期対応など充実している。外部講師を招いてネットによる被害、状況を確認することも必要。不登校、問題行動等への対応は、児童だけでなく親の不安にも寄り添ったり、関係機関へ繋いだりして個に応じた居場所を見つけてあげてほしい。
	危機管理体制の整備	B	マニュアルの見直し、緊急時シュミレーション訓練を実施でき、教職員の共通理解が図れた。	一斉避難訓練の実施において、地震、火災などの対処方法を学校で行ったことをよく覚えている。南海・東南海地震などを想定し、とるべき行動、命を守る最適な行動について指導願いたい。
		C	児童に予告なしで避難訓練を行い、児童も危機感を持って取り組むことができていた。地域の方と連携した訓練について不十分であるため、様々な想定で取り組んでいきたい。	各地で自然災害が発生しやすくなっているため、防災教育をより充実させることを願う。通学路上で防犯灯の設置の必要箇所の検討をお願いしたい。
	特別支援教育	B	コーディネーターが責任をもって業務を遂行しており、課題を抱えた児童への対応も、状況に応じて柔軟に進められている。支援を要する児童についての支援策について日々話し合いをすることができ、チームで動いていると考える。	今後も個に応じた指導を行い、丁寧なアセスメントや適切な指導を行っていただきたい。
	安全安心に過ごすことができる学校づくり	B	新型コロナウイルスをはじめとした感染症への対策として、行事の実施方法をその時の状況に合わせて行ってきた。日常の学校生活を健康に生活できるようにSSSの協力を得ながら消毒作業を行うなど保健衛生体制を整えてきた。	引き続きコロナウイルス感染対策(インフルエンザ)も行っていたら、元気な学校生活が送れるようにしてほしい。
	あさごドリームアップ事業	A	継続して行っていることで、積み重ねていることも多い。講師となる人材も複数おり、児童の情操や郷土愛を育む活動ができている。	講師を招いての授業は良いと思う。前田華汀先生の書道など、日常では触れられない学習を通して児童の取り組み意欲が高まっている。
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	B	1年生の授業でもグループでの話し合いが自然に行われていた。対話を磨くのはトレーニングであり、数多く取り組んでいかないと成果は表れない。見通しホワイトボードやチョークの色使いなども含めて、UDの観点で取り組んでいることは多い。	UDとは広くすべての社会の多様な人々が幸福で共存することと理解している。自己中心にならないように重要なことなので、より充実されるとよい。授業についていけない児童が見られる場合、個に合わせた課題の提示等指導方法の工夫が必要と思う。
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	B	あさごがんびり学びタイムや隙間時間を使って、学習補充を行うことができている。同室複数指導など日常授業の中で、児童の実態に即した指導方法を検討するなど、改善を進めている。	児童の「授業がよくわかる」が令和3年度より少しずつ上向いているのは素晴らしい。様々な〇〇教育を追いかけ、流行事のような横文字教育に取り組むことも重要なかもしれないが、何より「読み、書き、算盤」を大切に、時間を割いていただきたい。
	道徳教育	B	道徳の授業時間については確保できているが、指導の工夫や評価などについて研修を深めていきたい。	道徳心の高揚は、いじめの防止になる。年間指導計画の充実と実施をお願いしたい。
	情報教育	B	ちょこっと研修で得た知識はすぐに授業や教育活動に生かせるものばかりで、多くの教員が活用していた。情報研修を何度か行うことにより職員全体の技術向上につながった。	タブレットを利用して授業をするなど、すべての人に使いやすいように情報環境など、デザイン化し推進されている。機器の操作など、得意な人が苦手な人を助けられるように良くなると思う。
課題教育	人権教育	B	あいさつリーダー、中川クラフト、中川tube等を全校生で取り組む活動が多くあり、友だちの新たな一面を知れたり、自分の自信につながったりと、自己肯定感を高めることができた児童も多いのではないかと感じる。	学校生活全般にわたって、人権感覚を磨く場であることと認識して指導してほしい。
	体験活動の充実	A	自然学校での家庭を離れての生活は、楽しいことばかりではなく不安や困難なこともあったが、それを乗り越えた達成感は大きく自信につながった。準備や運営などで教員の負担は大きいが、成長を感じられた保護者も多くあり、成果を上げている。	自然学校は体験活動を通して自然の恵みへの感謝や自然への畏敬の念を育成している。体験活動の充実等が高まっているのは素晴らしいので、今後も五感を使った体験活動をお願いしたい。
	食育の推進	B	1学期末に、全校生に向けて、夏休みの食生活について栄養教諭からお話をしてもらった機会があったのは良かった。今後も学校にきていただく機会が増やせたら考える。食育指導など、給食センターや栄養教諭との連携はとれている。	専門的な立場から指導してもらうことは大切。引き続き連携をお願いしたい。
	キャリア教育	B	あさごドリームアップ事業の体験や講師との出会いは、あこがれや自身の将来へのきっかけとなる。また、さまざまな行事で、自分の頑張りをよく振り返って記録しているが、これらのより効果的な活用法をさらに検討していく必要がある。	児童のキャリアプランニング能力の育成をよりいっそう高めてほしい。できるならば、何か1つ興味を持って追いかけられるものを持つことができれば、これ以上の教育は無いのではないかと考えている。体験して初めてわかることが多くあると思うので、児童が将来の夢を少し思い浮かべられるようになるとよいと思う。
その他	B	中学校区で読書活動推進事業に取り組んでいるが、読書に対する意識の向上はまだ低く、継続して工夫改善していく必要がある。留守番電話やさくら連絡網での欠席連絡の導入、芝刈りロボットの寄付などにより教職員の勤務時間の適正化が進んだ。	AIによる宿題採点を考えるなど様々な手立てを導入して、職員の勤務時間の適正化、職員相互間のケア、定時退勤日の完全実施を達成してほしい。本を読まないのは読書ボランティアとしても残念。他に楽しいことが多いかもしれないが、何か対策を考えたい。	